



インドネシアのカリマンタン工科大学，スラバヤ工科大学と
タイのチュラロンコン大学から
教員・学生を受け入れ共同研究活動を実施

【概要】

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」の共同研究活動コースの採択を受け、インドネシアのカリマンタン工科大学から1名の教員と1名の学部生、スラバヤ工科大学から1名の学部生、タイのチュラロンコン大学から1名の大学院生を理工学部化学部門に受け入れて、10日間の共同研究活動を行いました。

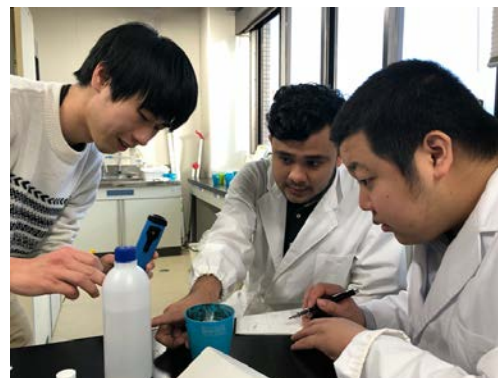
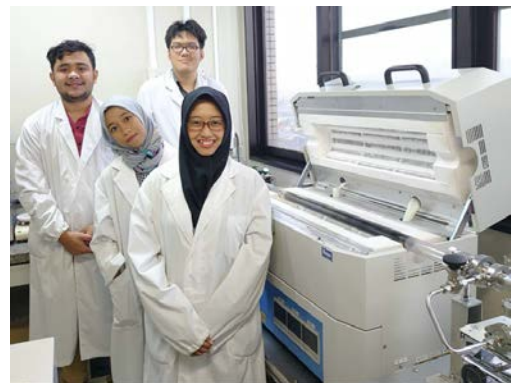
【本文】

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「さくらサイエンスプラン」の国際交流事業として、2020年1月21日から1月30日の10日間、インドネシアのカリマンタン工科大学の教員 Gusti Umindya Nur Tajalla 先生と学部生 Ansita Fitri Budi Hartantis さん、ならびに、スラバヤ工科大学の学部生 Rivaldo Zamara さん、タイのチュラロンコン大学の大学院生 Lao-Atiman Woranunt さんの4名が、理工学部化学部門生物電気化学研究室（富永 昌人 教授）において、共同研究活動と体験プログラムを実施しました。さらに、学部長を表敬訪問しました。

【共同研究活動】

単層カーボンナノチューブ複合電極を作製し、その界面上にコバルトナノ粒子を修飾したリン酸センサの開発を行いました。インドネシアでは、河川水の汚染が深刻で、リン酸等を測定する環境センサの開発は今後重要になると思われます。また、ガス拡散電極にナノカーボンを用いた微生物燃料電池の作製もしました。

プログラム最終日には、4名の招聘者が、各自の大学での研究や本プログラムでの成果について、各20分程度の英語でのプレゼンテーションを行いました。日本人学部生・大学院生も、各自の研究内容を英語で5～10分間で紹介しました。



【体験プログラム】

2020年1月25日（土）に、熊本市街を訪ねて、2016年4月の熊本地震で被害を受けて現在修復中の熊本城や水前寺成趣園などを視察しました。2020年1月28日（火）は、佐賀市エコプラザを視察しました。留学生は佐賀市のバイオマス産業都市への取組について深く感銘を受けていました。



【学部長への表敬訪問】

2020年1月21日（火）の来日後直ぐに理工学部長を表敬訪問しました。



【日本人大学院生の感想】

研究や視察などを支援した日本人学生にとっても、有意義な研修活動となりました。感想を以下に示します。

SN (M1) さん：自分の実験を英語で外国人に教えることは、実験の内容を改めて深く理解すること、分かりやすく伝えることを学ぶ良い機会でした。また、外国の文化や考え方の違いなどを知ることができました。自分にとって大きく成長できる体験だったと思います。



SN (B4) さん：今回のさくらサイエンスは、自分の研究について初めて他人に教える機会でした。短時間で重要なことを英語で伝えるというのは難しかったのですが、以前より知識を深めることができました。実験外でも交流を深め、異文化の方々への対応や英語を学ぶことができる機会でした。

